

なま

12月号
vol. 166



特集

かわの流氷の 草ぶらに

「ペンギン草」
聖天下1丁目付近にて撮影

「第5回」
三味線皮——人と動物の合流点
前編

皮革のまち、西成・浪速。
革にまつわるモノゴトを
蛇行する川のごとく
訪ね歩いていきます。

革の流れの 革の流るるに

[第5回]

前編 三味線皮——人と動物の合流点

「西成には野良猫や野犬を取る業者がいた」ということは、いつの頃からか耳にしていた。しかし詳しく知る人は誰もいない。それはこの地域の歴史の一幕。この特集で取り上げない手はないと思いつき、かつて「西濱」と呼ばれた地域の歴史に詳しい浅居明彦さんと太田恭治さんを、寺本館長とともに訪ねた。次号と2回にわたってお届けする。

ハーモニカ長屋のぐるり

寺本 俗に言う「猫取り」は大阪では浪速と西成だけ？

太田 全国各地に業者はいたようですが、戦前の大阪で言うところの「西濱」、現在の浪速・西成ですわ。

つを持って帰ってきた。

太 これがね、おもしろい。Tさんは「猫に出る」って言う。俗に「猫取り」って言われているけど、海では猟師が「漁に出る」、山も猟師が「猫に出る」って言う。すると、陸の猫は猫と犬取りや。あの人が「猫に出る」というのは全く道理や。寺本さんは、皮を干してあるとか、そんなの覚えてます？

寺 皮を干しているのは覚えてないけど、道路いっばいに流れた血を、水を撒いて洗っているのは覚えてます。ようわからんけど、気荒なおっさんばかり。でも、近所におつたら害ないし、よう面倒みてくれた。よう怒られたもんなあ。火遊びしとつたら、「コラアッ！」って。子分とかも自分のとこで住ませる。そついうちゃんと義理堅いことをする。

浅居 西成のTさんも三味線皮を卸してたらしい。

太 寺本さんは西成のどのあたりにお住まい？

寺 北開。子どもの頃は、今の北開の市営住宅のところ。ハーモニカ長屋があつて、小学校入る前に住んでました。二棟並んでるのがハーモニカみたいに見えるから、そう言うんやけどね。その奥に共同水道と共同トイレがあつて。周りは地道で、原っぱがいっぱいあつた。その界隈に三味線皮の業者（猫取りの一統）がいた。夏になったらいつも床几出してな、若いのが集まつた。

マタタビ仕掛けた箱を、夜明けぐらいにみんなが一斉に取りに行つて、それで猫入つてるや

太 Tさんが入つてた三味線皮屋さんの組合で、妙音会というのがあつた。それが年に1回犬猫の供養しはるんです。

浅 太子町に猫塚というのがあつた。知ってますか？ そこにお三味の胴の石碑がある。

太 三味線皮屋さんだけとちがつて歌舞伎の役者、それから下座の三味線の師匠、文楽の師匠も供養に来る。

寺 そうやるうなあ。
太 猫の皮の世話になつてるの、そういうことをちゃんとしてはる。今も続いているかどうかですけどね。

三味線皮作りの仕事はいつも間商売に悩まされてきました。動物愛護に反するとか、謂われない偏見に晒されてきた。でも、奈良のHさんの作る皮なんかは人間国宝級の人にしか入手できないほど重宝がられる。だから、妙音会を作つて日本邦楽組合連合に加盟したんです。闇の

猫塚が祀られている松乃木大明神

妙音会

飯のときに尋ねてみると、「いや、先生、ご存知ありませんか。ご先祖さんです、あれは」と。津軽三味線って、ちばん新しい。北前



猫塚

業者でなく認めてほしい、と。別の業者で京都のYさんが廃業されるというので、私が道具一式預かったんですが、その時、「ワシの三味線皮を京のある有名な人に二〜三千枚、提供したんや。でもそのこと、隠してはる」って。この人は、自分に必要な皮を持つておきながら、その三味線皮屋さんが動物愛護団体から攻撃されても応援してくれない。永六輔がこの話を聞いて本人に

「あなた、ズルいよ」と言ってくれたそうです。

これは、歌舞伎の下座の三味線弾きや文楽の太鼓、みんな同じやった。かれらが苦境に立たされた時、応援の声を上げてくれたのは、文楽の語り部、住太夫さんだけでした。

寺 そうやったんやなあ。これは昔からやけど、なんで猫や牛を殺して皮を作る人らは差別されて、楽器作る側とかは芸能と

の琉球貿易で、蛇の皮の三線が堺に来たのが始まり。胴はタイのニシキヘビの皮、弦は大和の生糸、棹は中国の紅木。沖縄の楽器、三線の材料は全部、外国産。音だけ沖縄やった。それが日本に来て、その三味線を琵琶法師や検校といった盲目の奏者が弾きだした。

航路上上がって行って、東北の替女さんが、三味線弾きながら門付芸をやったのが原型。高橋竹山の本によると、大きな音を出すために太鼓(三味線の胴)を大きくした。すると、猫の皮では寸法足らん。犬がそばにおるので、犬の皮にした。だから、本当の津軽弾きは弾く前に、まずはご先祖の琉球の三線を置いてあいさつして、お披露目してから弾くそうです。

また、京三味線の最初のレパトリーに《琉球》という音楽があったて、京三味線をやる人は絶対にこの曲を習うそうです。

太 原点を大事にしてはるんや

浅 永六輔のエッセイにあった津軽講演でこのことやけど、宿の玄関を開けたら、三線がトーンと鎮座してた。津軽で三線？

寺 へえ。そんなん、あるんや。

よっぽど、女将か旦那が沖縄好きなのかと思ったらしい。で、晩

飯のときに尋ねてみる

と、「いや、先生、ご存知ありませんか。ご先祖さんです、あれは」と。

津軽三味線って、

ちばん新しい。北前



浅居明彦さん



太田恭治さん

して持て離されるんやあって。それっておかしいやろう？

「」って言うでしょ。バンバンやっても破れない。猫皮は薄くてすぐ破れてしまうけど、繊細なこつこついええ音が出る。それで、超高級品は「八目」と言ってますわ。八つの穴がある。

犬の皮、猫の八目

寺 犬の皮って何に使ってたんですか？

太 知り合いの京三味線の先生なんかも「究極の音はやつぱり細棹の八目。一本だけ持つてるけど、破れたらもう終わりです」と嘆いてはりました。

浅 津軽三味線の皮です。津軽は犬、太棹は犬。中棹から猫になります。

習いたてのバチの使い方が下手な者は、犬の皮の「お稽古三味線」を使います。分厚いからなかなか破れない。津軽三味線は「叩

習いたてのバチの使い方が下手な者は、犬の皮の「お稽古三味線」を使います。分厚いからなかなか破れない。津軽三味線は「叩

琉球〜京都〜津軽

習いたてのバチの使い方が下手な者は、犬の皮の「お稽古三味線」を使います。分厚いからなかなか破れない。津軽三味線は「叩

太 三味線は元々、16世紀後半



八目の猫皮 (画像提供: 太田氏)

ね。

寺 ほんまやなあ。

太 三線(ヘビ皮)から三味線(猫皮、犬皮)に変わった経緯は

史料がまだ見当たらない。ただ、江戸時代の職の川柳に、太鼓の皮を張ったと詠んだものがあります。

寺 牛の皮やな。

太 ということは、こんなふう

に考えられる。太鼓は江戸時代から部落が作っていた。三味線の皮が破れてしまったけどヘビ皮はないので、太鼓の皮を張つ

た。

太 音については琵琶法師がいろいろ工夫して、薄い猫の皮に落ち着いたのでは、と推論しています。こうした歴史的な流れを踏まえないと、問題のありようを捉え違えてしまいます。

太 音については琵琶法師がいろいろ工夫して、薄い猫の皮に落ち着いたのでは、と推論しています。こうした歴史的な流れを踏まえないと、問題のありようを捉え違えてしまいます。

(次号につづく)

文責: 若松司

取材協力: 寺本良弘



ムル、さらにわかめスープと白飯まで付いてくる、かなりお得なセット。お肉の柔らかさはもちろんのこと、辛さ控えめの甘辛ダレと肉汁で、ご飯がいくらでも食べてしまえる。お手製キムチを口に運ぶと、さらにご飯が進む進む。落ち着け、いったん箸休め。ナムルとスープで口の中をさっぱりさせよう。そして再びお肉を口の中に……。この栄光の焼肉ロードを歩んでいると、いつの間にか完食してしまっていた。



もう一つの「チゲ定食」は当店の大人気メニューで、ピリ辛のスープの中

にたくさん具材がゴロゴロ、熱々の器に入って運ばれてくる。もうそれだけで食欲がそそられる。少し辛味が強いが、こちらもご飯がどんどん進む。食べているうちに体の芯から温まってくるので、少し肌寒かったこの日にはちょうどよかった。野菜もたくさん入って栄養満点。寒いこれからの季節にまさにピッタリのメニュー。

も来てみたい。ちなみに夜の人気メニューは焼肉屋の王道、国産牛の上ハラミ。この上ハラミと生ビールが私を呼んでいるような気がしてならない。そしてメニューを眺めていて気になったのが、鍋メニュー。豆腐、明太、テンジャン、キムチ、肉とチゲ鍋だけで5種類とバリエーションは豊富。そしてテッチャン鍋。今回はチゲ鍋をいただいたので、次はテッチャン鍋をいただいてみよう。

余談になるが、この取材の日はずいぶん無性に元気だった。どうやら昼に焼肉を食べると、活力が漲るようだ。お屋にガッツリとおいしい肉を食べたいとき、「今夜は焼肉パーティーだ」と心に決めた人はぜひ光州園へ足を運んでほしい。私も職場から近いので、これからお世話になりそう。

文責：山村裕太

光州園

住所：西成区鶴見橋2の5の12

電話：06-6562-2528

営業時間：ランチ12時～15時、夜17時～22時

定休日：火曜日

にしなりもん

西成にもまだまだ発掘されていない文化資源・社会資源は存在するはず。これら西成産のモノやコトを「にしなりもん」と名づけ、その由来やエピソードを辿っていきます。

栄光の焼肉ロードへ！ 「光州園」

今回は、鶴見橋商店街の焼肉屋の一つ「光州園」におじゃました。いつもと違うのは、昔、当店でアルバイトをしていたゆくとあいスタッフの同伴だということ。突撃取材を回避できたおかげで、ゆつくりおいしく味わうことができた。

マスターは快く引き受けてくれただけでなく、取材のために開店時間より1時間も早くお店を開けてくれた。本当にありがとうございます。

さて、光州園は創業32年、この商店街で長く経営されてきた。2階建ての店内の1階はテーブル席、2階は掘りごたつ式の座敷となっている。仕事帰りのサラリーマンでも家族連れでも利用しやすい仕様だ。

2人で取材にうかがったので、2種のランチメニューを注文した。一つは「焼肉定食」。こだわりの国産牛ハラミやローズがメイン、副菜にキムチとナ



【沖田一志】最近値段が下がってきたからか、SSDを搭載したPCを見かけることが増えてきた。SSDは従来のHDDより圧倒的に高速。遅いPCでも載せ替えるだけで快適に。換装しませんか？

【佐々木敏明】何所其処にそぶりうかがう冬隣り幾千の年経てもなほ月嘗める月に機影映し火星の近づきぬ一進も一退も知らず虫老いぬ

【田岡秀朋】コロナ確認から1年がたった。その間2度目の住民投票で大阪市は残った。でも改革を求める声も根拠があった。総合区に注目が集まるが、丁寧な議論に期待したい。



長野公園に勤務するわたくし大門が、勤務地やMyフィールドに棲む生き物の生態や豆知識などを紹介していきます。実用的な知識だけでなく生き物好きな人間の私的な関心も多いかも。どうぞお気楽に読んでください。



左：モズ♂ 右：モズ♀

vol.14
里山の
小さなハンター
モズ

ずいぶん寒くなってきました。今年もあともう少しで終わりますね。さて、今回は秋から冬にかけて平地に降りてきて活発に動き回る秋の里山の小さな狩人・モズをご紹介します。

モズ(学名: *Lanius bucephalus*)は鳥類スズメ目モズ科に属する小型のモズの仲間です。日本全国にいますが、じつは分布は極東アジアに限られます。北海道から九州にかけては留鳥(※)として、南西諸島と一部離島では冬鳥として飛来します。山地から平地にかけて幅広く生息し、繁殖期はやや山地沿いの農耕地周辺や草原などで生活します。繁殖期が終わり、涼しくなるころには平地へ移動し、農耕地や市街地の公園などに飛来します。

大きさは20cm前後、スズメよりもやや大きい「小鳥」ですが、嘴は猛禽類のように鋭く尖っています。雄は頭部と腹面側が茶褐色、背面上部は青灰色で喉元が白く、目頭から目尻にぬける黒くはっきりした過眼線(かがんせん)が特徴。雌は全体的に茶褐色で過眼線も茶褐色であり目立たず、胸部から腹部に現れる鱗模様が特徴です。昆虫やトカゲ、カエルなどを捕食する肉食性。気が荒く、場合によっては自分より大きな小鳥類や小型のヘビ類なんかも食べます。

モズといえば「はえにえ」という有名な習性——捕えた獲物を木の枝や有刺鉄線など尖った構造物の先端に突き刺しておく行動——があります。生糞を捧げ

ているように見えることから、「速糞」と呼ばれています。謎の多いこの行動は、一見すると、食糧が少なくなった時にとっておく貯食行動です。しかし、日本の最近の研究で、この行動が繁殖成功率に関わっていることが解明されました。はえにえの数が多い雄はその成功率が上がるのだそうです。単に食べるためではなく、雌にモテようと性的魅力を誇示する行動でもあったわけです。面白いですね。

ところで、モズは漢字では「百舌鳥」と書きますが、そのわけをご存知でしょうか。読んで字のごとく、実はモズは色々な鳥の鳴き声を覚えて真似することができるのです。実際、私もモズがメジロやホオジロの鳴きまねをしているのを聞いたことがあります。どうやら鳴きまねで寄ってくる小鳥を捕えているようです。この行動も実は繁殖に関わっていて、鳴き声のレパートリーが多いほどモテると言われています。

これから冬にかけてはモズの高鳴きが最も聞こえる季節。野外で「キーキーー、ギチギチ…」と聞こえたら、大阪の府鳥・モズを探してみてください。

※年間を通して同じ場所に生息し、季節による移動をしない鳥の総称。

大阪府宮長野公園
〒586-0051 河内長野市末広町581-1
TEL: 0721-62-2772 FAX: 0721-62-2810
https://www.toshi-kouen.jp/staticpages/index.php/nagano_top



10月はハロウィンパーティー♪♪ 特殊メイクの専門学校生に來園していただき、園児、スタッフは大変身！ 迫力のあるメイクでパーティーは大盛り上がりでした♪



ハナレバナレになった人とまち。くらしの窓から紡ぐヒントを探してみる。

みかたその2

前回の写真は、奈良県の天川西小学校の旧校舎。なんと築77年で、総ヒノキ造り。地域住民の労働奉仕で建設された学校の歴史は02年で一旦、幕を閉じるも、16年に地域の歴史伝承や天川を活かした催しを楽しめるレジャー施設「てんかわ天和の里」に生まれ変わった。

僕の住む地域の小学生たちとこの場所を訪れたのは、今夏が初めてだった。僕たちの過ごしたコンクリート造りとは違う、初めて訪れたこの木造校舎に、なぜ惹かれるのだろう。コンクリートが高価だったのか？ 林業が地場産業だからか？ 骨組みや建具、机も椅子も黒板もみんな木。心が無条件に暖かみを感じる。事実、木は適度に空気を含み、熱を伝えにくく、よりゆるやかに季節の変化を伝える。隙間風もまたいい。この土地の時間とも空間も全てが自然な一続きのような気がする。なんとも言えない、この安心感。

何かと距離をとりながら過ごす時世、素材が心をつなぐ何かの助けになるかもしれない。そんなことを改めて感じた夏の一幕だった。

(安田拓也)



現代の鉄筋コンクリート造の校舎

[安田拓也] 奈良の曾爾高原ヘドドライブ。ススキが高原一面を覆う壮大な姿に圧巻。早めの夕日が差し込み、黄金色の風景を撮ろうと多くの人が訪れる。僕はハイキングと草餅を楽しんで帰阪。

[西田吉志] 今年はコロナ禍で「人との関わり」に制約が増えた。だからこそ、日々の暮らしで付き合う人への感謝を大切に！ 来年のゆ〜とい新年祭は感謝月間イベントにするぞ！

[寺島史視] 12月はなんといってもクリスマス。ゆ〜とあいでは子どもイベント「クリスマス会」を開催する。感染対策をしながら子どもたちが楽しめるイベントにしたい。

[谷口円] 自宅が仕事場なんです。最近PCの外付けモニターを買って仕事がしやすいよう机周りを改造したところ、部屋が「ベット付きの事務所」みたい…。くつろぎ感ゼロです。

葉っぱの吐見

私は草木が大好きです。とくに観葉植物には心癒されます。私と葉っぱのお喋りを聞いてください。



「シクラメンの葉っぱ」の巻

ことし最後のわがままです。
あなたの手のひらで私に触れてください。
私にあなたのパワーをください。
大きな手のひら、小さな手のひら。
温かい手のひら、冷たい手のひら。
どんな手のひらでもいいのです。
寒い冬がやって来た。
私は色とりどりの花を咲かせた。
温かな心をつくる花を咲かせた。
そして私は、ことし最後の仕事を終わらせました。

赤井まゆみ

シクラメンの事

サクラソウ科シクラメン属。日本では、クリスマスや年末のギフトとして人気がある。冬を代表する花といわれるが意外と寒さには弱い。花言葉は「内気」「はにかみ」。

皮算用 胸算用

にしなり隣保館の館長が日々の出来事について胸のうちに皮算用していることを語っていくよ。



(寺本良弘)

い湯かげん

住民投票が終わった

住民投票は「大阪市を廃止、特別区に四分割」することの賛否が条件だったから、これはもう「チャレンジ(革命のような)」だった。だから普通に「無謀」だった。それを5年越しに2度も挑み、直前まであわやと体感させたのだから驚嘆もしたが、実際は悪夢だった。結果は「今のまま」。

二度の僅差に勝因敗因を探ってもあまり意味はないし重箱の隅になるから、淡々と受けとめたい。ポクは、住民投票にまで至らないようにするのが政治の責任で、大阪市を残したままの「総合区」で妥結するのが良いと思うってきた。ここまで動かすのに維新は百の力を要したのに比べ、十の力

で止められたはずの議会に算段はなく「革命」は「暴走」した。今でも、ひよっとして市長と議会が互いに反省し、総合区で急転急回、なんて微かな期待も持つが、それは夢のまた夢。以上が住民投票へのポクの感想だ。

それはそうとして、住民投票のこぼれ話、いや「拾い話」を二つ三つ。まず外国籍市民の投票権の有無が市民運動になった。これは拾うに価値があるし、住民投票の根幹にある隠れたテーマだ。物騒な話になるが「二度目の住民投票」の動機になるかも。

「拾い話」の二つ目は、反対の論拠の一つになった介護保険の一部事務組合化。簡単に言えば、特別区から独立した介護保険の役所を作り議会も設置すること。それでは特別区の介護は他人任せになるという危惧が出た。いっそ、一部事務組合なんて言わずに「介護は別の議会」と発想を変えて、住民参加を構想したらどうなんだろうと夢想した。

三つ目は、障がい者団体等から示された「特別区で福祉は下がる」という危惧。都市は多様な分、福祉が不安定になるというのなら、何らかの仕掛けがあっても良い。大阪府は「行政の福祉化」と称した障がい者雇用のハートフル条例で市場への規制を効かせてきた(民営化だけでない市民営化の視点)が、「都市福祉化条例」のようなものがあればと思った。

四つ目は議員の定数問題。特別区議会は少数の議員で寡占化して民意から遠ざかってしまおうと懸念された。これは御意で「維新は抜かった」と思った。住民投票に至った以上が住民投票翌日のポクの感想だ。



富田一幸

人間のしあわせ、福祉のあり方、そして新しい社会の結びつきを求めて、これからも「いい湯かげん」のテーマ探しに出かけます。



【若松司】読みごたえのあるテキストに出会えた。吉田秋生のマンガ「海街diary」と東浩紀「原発事故と中動態の記憶」。能動態と受動態の間にある中動態、そこに悪の愚かさがあるようだ。



【山村裕太】ソフトボールに誘われました。とても楽しみですが、今は二塁打性のあたりを打っても一塁で止まる自信があります。

地域の縁を心でつなぐ

心の時間



十二月に入ると、午後四時を過ぎる頃にはお日様が沈み始めるので、一日の過ぎる早さを感じます。先日の葬儀では、ご遺族に「人生を長い短いで、競い合ってもむなししいことです。貴い人生、深い人生を最後まで生き抜かれたことに敬意を払いたいです。」とお伝えしましたが、長寿は喜ばしいことですが、平等に与えられた一日の時間

も人によって感じ方が違うので、一概に「長寿は幸せ」「短命は不幸せ」と言えるものではありません。

京都仏光寺様の標語に「余生とは余りの人生ではなく、余すことなくいたただく人生である」とあります。

「余生」をどう生きるかは、老人だけでなく全ての世代に問いかけられた大事な言葉です。「人生二毛作」という言葉のように、一回の人生で二回分の異なった経験をするのも「余生」の一つでしょう。また僧侶のように定年退職なき「余生」もあります。

おいしいラーメンはスープを最後まで飲み干すのごとく、最後まで「余生」を使い切って、満足した人生に仕上げたいものです。

松向寺 通法

ココドコ

ココはドコ？
わたしはゆ〜とあ
編集部が厳選した
「にしなり100景」
大公開！

「人間乾燥室」とは何なのか？上に書いてあるキャッチコピーはヒントになるのかならないのか…。ココがドコだかわかった人は、ゆ〜とあいの受付まで！正解者にはドリンク無料チケットをプレゼントいたします（先着10名様限り）。回答期限は12月末日、ふるってご回答ください！

【先月号の答え】 南海電鉄高野線（汐見橋線）の木津川駅でした！大阪で最も利用者の少ない駅の一つと言われているそう。



2020年11月撮影



ゆ〜とあい

にしなり隣保館

にしなり隣保館「スマイル ゆ〜とあい」は、地域コミュニティ全体が抱える課題の解決をめざす民設民営の福祉施設です。日々悩んでおられる困りごとはありませんか？お悩み解決のためにできることをいっしょに探しましょう。

なび 12月号 (vol.166)
発行日:2020年12月1日(創刊日:2007年1月1日)
発行:株式会社ナイス
住所:大阪市西成区長橋3-6-33
電話:06-6563-1156
E-mail:info@nice.ne.jp
url:http://www.nice.ne.jp/

編集長:若松司
編集:沖田一志、佐々木敏明、田岡秀朋、
寺島史視、西田吉志、安田拓也、山村裕太(あ
いうえお順)
イラスト:hidarimaki デザイン:谷口円

facebook: <https://www.facebook.com/navi.nishinari/>

facebook

